

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401053		
法人名	有限会社グループホームふるさとの家		
事業所名	「城下」にしありえ	ユニット名	
所在地	南島原市西有家町龍石1417-1番地		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれており、穏やかでゆっくりとした時間が流れている。近所で季節の山菜と採り昔ながらの環境を大事にし、お互い助け合いながら生活しています。地域との触れ合い活動では、近くの小学校へお願いに行き、子供達との交流や学校行事へも進んで参加させてもらっています。「家庭と同じ環境」を作り出すために、職員一丸となって利用者の皆様に毎日が潤いのある生活を送っていただけるようにと日々努力しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム“城下”にしありえ”に入居すると元気になる方が多い。自然豊かな山里は利用者にとって馴染みの場所でもあり、ツワや山菜のある場所もご存じで、野菜を育てる事、山にある筍を掘りに行く事、ツワや山菜、ピワや柿を採りに行く事など、季節に応じた旬の食材を“当たり前”に育て、収穫し、“ごぼうそぎ”や“ツワ剥き”なども利用者の方々が担って下さっている。郷土料理の“イギリス(伊予を使った海藻料理)”や手作りの“ところん”も楽しまれ、地元の習慣でもある“饅頭作り”も日常で、饅頭を包む葉っぱも山に採りに行かれている。管理者と職員の地道な取り組みは、着実に“城下”にしありえ”の姿を作り上げ、家族や地域の方、主治医等からも信頼を頂ける関係が築かれている。“管理者”と言う立場を前面に出さず、職員が気軽に話しかけられる関係作りを大切にしてくれ、職員の意見を尊重しながら、利用者との関係を深めてくれた管理者の存在は大きい。昼夜を問わず、地域行事やイルミネーション見学、子供達との交流など、“楽しめる”事は何でも行われており、これからも更に“楽しい思い出を作っていきたい”と、職員の思いが一つになっているホームであった。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当たり前、普通の暮らしをしていただけるよう、全職員が理念を基に実践している。	「老いても 障害を持っても 当たり前」に 自分らしく普通に暮らしたい」と言う理念のもと、季節の食材を採りに行かれたり、夜に島原城までイルミネーション見学に行かれた。「こんな物を見物できるなんて夢にも思わなかった」と利用者が言っておき、職員も嬉しく思った。昔からされていた事を“当たり前”にできる環境が作られている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や、地区の各小学校との触れ合いなど進んで参加し、毎回声がかかるようになっている。	近隣の独居の高齢者の方にホームのお風呂を使って頂き、利用者とも顔馴染みになっている。龍石ふれあい市では、利用者と中学生と一緒に桜餅・おこわ・うどんを作り、出店で販売している。地域行事(神輿祭り、口之津小相撲大会等)には利用者と一緒に参加し、蔵めぐり(お酒、味噌など)も利用者と周り、甘酒も頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や学校行事の際、施設の利用者と一緒に作った廃油石鹸を、作成の様子などを掲げ皆さんに配ったりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を、職員会議で報告し、サービスの向上に生かしている。	2月に1回開催しており、行事報告と共に、地域行事などの打ち合わせもしている。町内会長、地域包括の職員、家族が参加して下さり、欠席者には報告書を郵送している。「火災訓練での消火活動状況なども把握するとよい」と言う意見を頂き、地域の消防団に実際の消火活動をして頂く事ができた。	現在は地域包括の方が参加して下さっている。今後は、広域圏の介護保険課の方にもホームに来て頂き、ホームの事を知って頂くと共に、制度の説明などとして頂ければと考えている。今後ともお願いをしていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密にとることはないが、地域の行事参加や各小学校との交流していることで、市町村の方にも情報が入っているようだ。	施設内容の変更などは、広域圏に管理者が出向いて相談しており、親身に対応して頂いている。更新申請等は役場に行かれており、役場の方とも顔馴染みで、予防接種の書類の出し方などのアドバイスも頂いている。地域包括の方も、ホームの夏祭りの準備から来て下さり、協力頂ける関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、月一回の会議を行い全職員がその意味を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待防止委員会では毎月の目標を決め、意見を出し合い、評価も行いながら日々のケアに取り組まれている。利用者の方も穏やかに過ごされており、“身体拘束の無い”生活を続けている。生活歴も把握し、代表の思いでもある、ご本人の心と体に“傷1つ付けない”事を職員が共有し、優しい関わりが行われている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設け月一回の会議で話し合いを持ち事業内の全職員がその意味を理解しその内容に沿ったケアを行うことで防止に努めている。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がすべての契約書の内容を家族に説明し、納得されてから署名、捺印をもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、それとなく本人様のご様子やお気づきになられた事など尋ねるように心がけている。また運営推進会議へもご家族代表の方に参加して頂き運営に反映させている。	面会時に日々の体調や暮らしぶりを報告すると共に、担当者からの手書きのお手紙を毎月郵送している。年に4回は写真も掲載した“城下たより”を作成している。入院時に「ここ(城下)に帰られるのか」と言う家族の心配があり、医療連携も図りながら、ホームで対応できるように体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議を行い、個々の職員が意見や考えをのべる機会を設けている。また、管理者会議で他の施設の意見も参考にしながら反映できるようにしている。	各担当の係(行事、ケア、美化)を決めており、職員会議や管理者会議で職員の意見を聞いている。管理者は担当の意見を尊重し、全職員が納得いくまで話し合い、できる限り実行している。職員のアイデアで廃油から石鹸を作る取り組みも行われ、利用者にアドバイスを頂きながら、中学生も一緒に作り、地域の方にも配られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が違う生活環境に合う労働条件に配慮した勤務条件で働けたり、資格手当や各担当者手当をつけて下さり各自が向上心を持って働けるよう取り組んでおられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも色々な研修を企画し、また外部の研修も進んで参加できるように配慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やスポーツを通しての親睦会など計画して下さり、同業者との交流する機会を作りサービスの質の向上に取り組んでいく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族や本人から聞き出し、その後も面会時などでも家族から色々な話を聞けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	始めに家族の要望や意見も計画に反映させ、納得して頂いてサービスを開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家族や本人から聞き出し、何がまず必要かをともに考え色々なサービスもお知らせしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家庭の延長」となれるよう、職員も家族の一員になりともに相談できる関係を築けるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族にだけしか言えないこともあるので、家族が何でも気軽に職員に話せるような関係になるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や贈り物が届いたら、お礼の手紙を書き、一緒に写真なども付けて送っている。	思い出の場所をドライブし、昔の話を引き出している。お墓の場所も教えて下さり、歩けない方は車の中からお参りされている。「ここが私の柿畑」と教えて下さり、他の利用者も一緒に柿を採り、干し柿作りも楽しまれている。希望に応じて、ご本人の畑の様子を見に行き、ピワを採ってきて庭で皮を剥いて食べる事も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る位置や利用者同士の関係に配慮し、職員が常に見守るようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者家族に、施設に残っていた写真と一筆添えてお送りした。また家族へあった際は、気軽に話しかけ様子を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり、希望・意行の把握に努めている。また家族に尋ねたり会話や行動の中で本人の意向を把握している。	「迷惑をかけたくない」という思いもあり、自分から要望を言われない方もおられる。適宜職員からお誘いし、「外に行きたい」「飴を買いに行きたい」「お墓参りに行きたい」「お刺身を食いたい」等の要望を引き出している。意思疎通が難しい方は生活歴も把握しながら、表情などで気持ちを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人とのコミュニケーションやご家族からお話を聞くことで、これまでの暮らし方、生活環境に努めホームでも継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方など、介護記録・申し送りなどで把握するように努めている。またその日の表情やバイタルなどでも把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は担当制にし毎日の日常記録の情報を基に作成する。また家族の意向も取り入れ作成する。キーワードを定め、毎月モニタリングと評価を行い職員会議で意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。	25年2月に介護日誌の書式を変更し、“キーワード”と称して計画内容を日誌に転記している。ご本人の意向と共に職員全員の意見を反映し、水分補給や外出支援の視点も大切に作られている。日々モニタリングを行い、体調変化時は計画を見直し、行動の背景にある原因にも目を向け、常に“何故”と言う視点で関わりを続けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	分かりやすくそのままの言葉で記入し、全職員がその時の様子がわかるように注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診やご家族内の行事にも参加できるよう努めている。利用者の体調に合わせ柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔から利用されていた病院や美容院など出来る限りそのまま利用して頂くように、先方にも相談し対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医に受診してもらう。かかりつけ医がない利用者に関しては、当事業所の協力医にお願いしている。	遠方の場合も含めて職員が通院介助をしている。必要な場合は家族も同席され、他の家族を含めて受診結果の共有もできている。往診も受けられ、必要時はホーム内で点滴も行われている。職員の観察力も高まり、異常の早期発見もできており、主治医や訪問看護師からのアドバイスに適宜頂ける事ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師より健康チェックを行ってもらう。その時に利用者の情報を伝え、相談している。また協力医の往診の結果も報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当Drや看護師との情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に説明している。また、重度化に他場合にはもう一度ご家族や主治医と話し合いを行い希望に沿うような支援をしている。	入居前に「看取りの指針」を説明し、ご本人や家族の意向を丁寧に確認している。24時間体制で主治医と訪問看護師との連携ができており、職員の安心になっている。過去8名の看取りケアが行われ、家族も宿泊し、職員と一緒にエンゼルケアが行われた。利用者も一緒にお見送りをして下さい、手を合わせる姿が見られていた。看取りケアに関する勉強会も続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。また研修会にも進んで参加をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	しっかり訓練をすることで、避難する方法を身につけるようにしている。また消防点検票を職員でチェックすることで、家事を出さないように心がけている。	2ヶ月毎に自主訓練をしている。消防署(年2回)消防団(年1回)、地域住民も一緒に、実際に負傷されている方々を想定しての避難訓練(夜間想定)が行われている。リビングのストーブは周囲に囲いがされており、遅出が必ず消している。スプリンクラーも設置され、災害に備えて、災害バック、水、米、塩などが準備されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉かけの方法(声のトーン、返しの言葉、目線)を常に注意し、利用者を敬う気持ちで接することに心がけている。	「ちょっと待って」などの言葉は使わず、「待って」の言葉の前に理由を伝えるようにしている。失禁時は耳元でお声かけし、トイレや居室にお連れし、小さな声で排泄状況を確認している。ご本人が嫌がられる事には触れないように配慮し、職員は優しい気持ちで接するように努めている。個人情報の管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活や行事において「～しますが、どうされますか？」などその時その時の意見を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をするにしても、その時の本人様の気持ちや体調に配慮し、対応できるようスタッフが臨機応変に対応する様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭そりはもちろんのこと、季節に適さない服装でない限り、本人なりのおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえは、負担にならない程度で必ず参加して頂き、味付けなどの会話を楽しみつつ取り組んでいる。また配色にも心がけている。	利用者と買い物に出かけ、“ごぼうそぎ”等もして下さっている。男性利用者が管理者と一緒に筍掘り等に出かけ、女性利用者の方が下ごしらえをして下さっている。魚屋さんが移動販売に来て下さり、新鮮な魚も食べられ、郷土料理の「イギリス」と共に、ところてんや饅頭も利用者と一緒に作られている。	今後も更にホットプレート等を準備して、利用者と一緒に楽しめる”お好み焼き”やおやつ作り等をしていきたいと考えられている。職員のアイデアは豊富で、“食事を楽しむ”機会が更に増えていく事を期待していきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や病歴に合わせ、対応している。利用者の方々は「残せない」と思われる方が多いので、その人の摂取量を考え提供する様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行ってもらうように、さりげない声かけを行っている。出来ない方は職員が手伝っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄票を利用し、定期的な誘導を行っている。	身長や体調に応じて3パターンのトイレが作られている。利用者個々の排泄感覚を把握し、個別の誘導を行う事でパッドの枚数は減ってきている。パッドの選定も個別に行い、1カ月のパッド等の使用量も記入している。ご本人の力を引き出すために“待つケア”を行い、入院時にオムツだった方がトイレでの排泄が可能になった方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態は把握しその都度対応できている。日頃から食物繊維の多い食材を使用したり体操などをとりいれている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、職員の人数が多い時間帯(午後)に行っている。危険防止を考えるとその時間帯になってしまう。	お風呂好きな方が多く、基本的に1日おきの入浴であるが、希望時は毎日でも入浴が可能である。広いお風呂であり、中の階段を下りる時には職員が支えている。1番風呂が良い方もおられ、希望に応じた入浴支援を続けている。ゆっくりと入浴して頂いており、職員との会話も弾み、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、出来るだけ夜間にゆっくり休んでもらうよう、職員が昼間の過ごし方を考えて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を全職員が見れる場所に設置し、各個人名の保管場所に置き、勤務している職員が服用まで確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や興味がある事、好きな食べ物など会話の中で聞き出し、それを生かした活動になるように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも要望があれば対応出来るようにしている。	「城下」公園マップを作成し、トイレの場所等も記載している。島原半島のみならず、長崎へのドライブも行われ、四季折々の花見や島原城のイルミネーション見学、小浜の足湯も楽しまれている。目が悪い方の希望もあり、三社参りは生目八幡宮にお連れする事ができた。お参りに来れなかった方の分も一生懸命にお参りする姿が見られていた。天気の良い日は毎日外出し、行事等は家族もお誘いしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に行っていないが、状況に応じて家族の依頼があれば買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	色々な場所に常に季節の花を飾り、庭などにも季節の花を植えることで季節感を感じていただいている。また、利用者個人の植木鉢を作り季節の花を植えてもらった。	リビングには2つのテーブルがある。レクをする時は端に移動し、ホールや風船ハレーなどを楽しまれ、職員がリビング横の居室に置いているピアノも弾かれている。職員が自宅から持参した花や、ホームの庭に咲いている花を年中活けており、季節を感じる事ができている。玄関や廊下には沢山の写真(行事や外出時等)が貼られ、職員と一緒に眺めながら、ご本人に思い出して頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にコタツなどを設置し、気の合う仲間同士で過ごされている場面がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってこられたものや、家族が持ってこられたものを気軽に置いてもらい、自宅で過ごしているような雰囲気作りをしている。	各居室は広く、部屋からは周囲の山を眺める事ができ、遠くの海が見える部屋もある。洋室(5つ)と和室(4つ)の部屋もあり、筆筒やこたつ、テーブルや座イス等を持ち込まれている。日本人形なども飾られ、家族が持ってこられた観葉植物も大きくなっている。家族が泊まれるように、簡易ベッドや布団も準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ゴミ集めやカレンダー作り、包丁研ぎなど出来る方はして頂き、各利用者が何か生きがいを見つけてもらい生活して頂けるように支援している。		

事業所名：「城下」にしありえ

作成日：平成 25 年 3 月 7 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先 順位	項目 番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	40	ホットプレートなどを利用して利用者と一緒に好み焼やおやつ等のしていく食事を楽しむ機会をもっと増やしたい。	ホットプレートなどを使用し、利用者と一緒におやつ作りや食事づくりをして楽しむよう支援する。	利用者と一緒に出来る調理器具を購入する。 色々な行事等で皆で作業できるように内容を考える。	3 ヶ月
2	4	今後運営推進会議などで、広域圏の介護保険課の方にも参加できるようにし、ホームの取り組みや制度の説明を行ってほしい。	運営推進会議で、家族や施設の悩みや希望を聞いていただくことにより、介護についての意見交換ができる。	連絡協議会で、運営推進会議の参加を呼び掛けていただく。また、推進委員にも入っていただくよう呼び掛ける。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月